

「東大に入るのは無理だ」。この言葉は今まで、勿論二高に入学してからもよく耳にする。しかし、そのように考えるのは『今の自分』の場合を考えているからではないだろうか。東大だけの話ではない。非常に極端であるが、無理なのだったら自分を変えるべきだと思う。これは私のポジティブ思考からくるものであるのは間違いない。しかし考えてほしい。小さな子供が「オリンピック選手になりたい。」とって目指すことと同じであると思う。だが、この彼らと自分たちの違いは何なのであろう。私は、未来の自分への期待の大きさの違いであると思う。小さな子供は、夢を叶える年齢になるまでの長い期間を持っている。だからその期間で自分は変わる、成長できると考えている。それと比べて私たちは3年間という短い期間で大きく変わる希望があまりないように感じられる。また別に、二高生である自分に満足しているようにも感じられる。しかし私はそう思わない。確かに3年間は短いし、そもそも自分を変えるのは大変難しい。けれども、今まで生きてきた15、16年間は何かだったのであろうか。自分と向き合って、大きく成長してきたのではないだろうか。そうであったのなら、今こそその経験を、鍛えられた精神を3年間の努力に生かすことができるのではないだろうか。つまり私は、急激な変化を遂げる可能性があると考えているのである。それに子供として、がむしゃらに努力して夢を目指せる最後(?)の機会である。海外の大学に行くことも、何かの全国大会を目指すことも、就職するのが難しい職業を目指すことも同じである。私は、『今』に満足してしまっただけでは『今』以上の楽しみを得ることはできないと思っている。だから私は何か大きな目標を定めようと、様々な情報を集めるために、今回、この『東京研修』に参加したのである。長く暑苦しい熱弁だったと思うが、このことを踏まえてこの先、読み進めてほしい。

東京に到着し、まず初めに訪れた『国際会議場』。ここでは笹川平和財団・日本財団・ディレクトフォー共催のプログラムに参加した。まず、最初に行われた笹川平和財団理事長・田中伸男氏による講演。IEAや笹川平和財団における活動を通して『国際機関に入るヒント』を教えてくださいました、非常に貴重な時間であった。そのヒントについて、沢山のお話の中から私なりにまとめてみた。それは『積極的にチャンスをつかみに行くこと』である。田中氏の豊富な経験談を伺うに、このことが国際活動の元となる心構えなのではないかと思う。グローバル化が進むこの時代。その中を生きる私達にとって、大切な助言を頂いた。国際エネルギー機関(IEA)の前理事長である田中氏との出会いと、彼からのアドバイスは、私の人生における糧となると思う。

講演の後には、講師と班ごとでのグループセッションを行った。講師の方々の海外経験を元に、世界で働くことについて、密度の濃いお話を聞かせていただいた。その中で最も心に残ったお話というのが『相手の意見を受け止める』というものであった。自分の意見を伝えたいのであれば、まず相手の意見を聞いて、それから自分の意見を言う。意見をすり合わせていって、信頼する仲間を作っていく。講師・安達さんのお話である。安達さんはこの考えを基に行動することで、ブラジルにおいて社長という地位まで登りつめた。私はシンプルかつ合理的な考えが好きだ。成功者が言うこの考えを、社会で活躍するために十分に活用させていただこうと思う。その他にも世界で求められている人材や、講師の方々の人生、日本における国際的な問題点、仕事に対する心構えなどについて話し合った。どの講師のお話にも共通するのが『自分の考えを明確に持つ』ということだった。先ほどの安達さんの考えでも勿論、沢山の情報からの選択において、将来について先が見えない時においても、自分の考えが重要になってくる

という。講師の方々との時間はあっという間に過ぎ、ついに終了の時間となった。このような時間を用意して下さった全ての方々に感謝し、次に生かしていくことが、私達がすべきことであろう。

今回のプログラムでは、私の研修目標を意識して参加できていたと思う。少しずつでもいいから、考えを整理して自分の中に取り込んでいこうと思う。

プログラムが終了したのは午後1時ごろ。私が所属していた3班は東京大学分子細胞生物学研究所へ向かった。私は生物系の分野の職業に興味を持っていたため、ここへの訪問を非常に楽しみにしていた。ここでは生命現象の秘密を分子レベルで解き明かすことを目的とした研究を行っている。主に『寿命』を中心としたものであり、医学的にも生物学的にも、そして倫理的にも非常に興味がわく研究内容である。最初の1時間はその研究内容について、詳しく説明していただいた。私は生活習慣によって寿命の長さが決まるものだと思っていたが（いや、それもそうなのだが）、根本的な理由はそうではなかった。もっと入り組んだ生物学的な内容で、ゲノムの安定性が鍵を握っていたのだ。特に不安定な『リボソーム RNA 遺伝子』を安定させる『サーツータンパク質』を増やす実験をしたところ、その個体はそうでない個体と比べて寿命が伸びたそうである。この結果から今後『寿命』について、どう研究が進んでいくのか。非常に楽しみである。説明のあとには、実際に研究現場を見学させていただいた。どの研究も高度な内容のものであったが、大変分かりやすく教えていただき、収穫の多い時間を過ごすことができたと思う。また、予定としては3時半に終了するはずだったのを、5時半まで延長させていただいた（勿論先生の許可を得て）。忙しい中、時間を割いてまで私達を迎え入れてくださり、親切に対応して下さった小林教授をはじめとした研究室の皆さまへの感謝の気持ちを忘れずにいたい。

この訪問は、今回の研修の目的よりも少し先にあるものであったが、興味ある職業について学べることができ、本当に有意義な時間を過ごすことができた。

品川プリンスホテルに着いたのは5時半ごろ。6時からの美味しいディナーを頂き、7時半からのプログラムに備えた。そして始まった『東京大学院生・学生・卒業生（仙台二高OBOG）による懇談会』。14人もの卒業生のうち、関わるのができたのはほんの3、4人ぐらいであったが、あの2時間はこの東大研修の中で最も楽しく、ためになった時間であると言っても過言ではない。東大に行った先輩のほとんどが、努力した3年間を持ち、沢山の壁を乗り越えてきた経験者であったからである。勉強と部活の両立や文理の選択、さらには将来の夢などの相談にも乗ってくださったり、先輩方の豊富な経験をじっくりと聞かせていただいたりもした。忘れることのできない時間となったのである。終了の指示が出る度に何かと悔しく、心残りするようであった。恐らくこの先、もう一度このような企画があると聞いている。その時が非常に待ち遠しく感じる。今回得た情報やアドバイスを次へと生かし、自分を成長させていこうと思う。

今回のこの東京研修は私にとって、非常に有意義なものであったと思う。最初、研修の前は不安を感じていたが、本当に素晴らしい2日間であった。先ほどの田中氏のおっしゃる通り、チャンスを掴むことは大切なことだと実感させられた。今回の目標は期待していた以上に達成できたのではないかと。帰ってきたからつくづく「行って良かった」と思っている。今回企画していただいた方々全員に感謝し、私はそれに応えるために、研修で得たことを十分に活用していくつもりだ。